

## 『天声人語2009 7月～12月』

朝日新聞出版  
著者：朝日新聞論説委員室  
価格：1,575円



テーマは「私が薦める一冊」。しかし、学生時代にぜひ読んでほしい一冊を、と言われてもとても難しい。振り返ってよく考えても、なかなかこの一冊というのが思い浮かんでこない。

わたしの高校～学生時代、それは1960年代後半から1970年代中期、わが国が大きく揺れ動いた学生紛争華やかかりしころであった。

高校を卒業した年は、東京大学が入学試験を取りやめた年、ベトナム戦争の真つ最中。当時の我々は心揺れ動く世代であり(と、少なくとも当時の「おとな」たちは思っていたであろう)、その心情を書きつづけた作品をなんとなく読んでいた。今、振り返ればとてもなつかしく、若かったなあと、その頃の自分をふと思い出す。

年齢を重ねるのはたれにも避けることができない。肉体的な加齢についても同様だが、心情的に若さを保つことは十分できる。いつまでも心の若さを保つには、世代を超えた自由な会話ができる尺度と教養を身に付けねばい。それを可能にしてくれるのは、背伸びをして難しい本を読破することではなく、年をとって若いころを振り返った時、ふつと頭によぎるような、当時の体験や思いを等身大で想い出させてくれる作品群ではなからうか。J・D・サリンジャーの「ライ麦畑でつかまえて」(白水社、1964年)、柴田翔の「されど、われらが日々」(新潮社、1964年)、庄司薫の「赤頭巾ちゃん気をつけて」(中央公論、1969年) などなど。半世紀近くたった現代の若者たちの心にも通ずるものがたくさんあると思われる。

ここまで述べてきたものの、じつはわたしは、現代国語、読書が大の苦手であった。学生時代は勉学よりもクラブ活動(軟式庭球)に没頭した。でも一つだけ守り続けた高校時代の恩師の言葉がある。それは「天声人語を毎日読め。そして起承転結を自分でまとめろ。その積み重ねが人生の宝になる。いくら本を読んでも自分で考えないと身につかない」というものである。現代の若者たちは新聞を読まない。情報源は他にたくさんある。でも、やはり新聞は毎日読んでほしい。そして考えてほしい。そこで私の薦める一冊はやはり、他でもない「天声人語」なのである。

## 学生スタッフコラム 6



サッカーのワールドカップや上海万博など世界各地でさまざまな熱いイベントが開催されています。そんな最中、ふと、身近なところを見わたすと、私たちの瀬戸内もどつやら騒がしくなりそうなのが気配が…。瀬戸内国際芸術祭2010を前に、舞台の一つとなる直島を紹介します。

この夏、「瀬戸内国際芸術祭2010」が開催されます。期間は、7月19日(海の日)～10月31日の百日間です。その会場ですが、瀬戸内海の七つの島と高松(直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、高松港周辺)です。

古来、瀬戸内海では、人々が行き交うことで、島々の固有の文化や様式が育まれてきました。このイベントは、美しい自然と人間が交錯し、響き合うことで、再び、島々に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上すべての地域の「希望の海」となることを目指しています。

そこで今回は、イベントの舞台を、いち早く肌で感じるべく、直島を訪れました。宇野港から直島・宮浦港行きフェリーで片道約20分。久しぶりの潮風は実に心地が良いですね。しかも、南下する航路の先には、高松も手に入るように見え、直島初体験の私は、海から眺める瀬戸内の島々の独特な風景に、子供のよう感動しっぱなしでした。



まず、島の玄関口となる宮浦港では、「海の駅おしま」と、最初に目にします。アート「赤かぼちゃ」が歓迎してくれます。車も乗り入れられますが、レンタサイクルを活用すると、島の文化と自然をより身近に感じられます。

そうそう、島のエリアマップは、最初に入手して下さいね。ドジな私は、帰りに手に入れました(笑)。

つぎに、私のおすすめスポット「地中美術館」を紹介します。宮浦港から地中美術館へは、くねくねした道を、バスに揺られて10分位。下車すると、モダンなチケットセンターに到着です。「美術館は、どこ？」と思いつつ、人波に誘導されるがまま、緩やかな山道を歩くとすると、ほほえましく、美しい草花と樹木の庭に出会えます。自然の発する柔らかなリズムに酔いしれていると、そこへ、突如、ミニメンタルなコンクリートの輪郭が口を開けるのです。

おっと、すっかりした。この続きは、皆さん自身が体験して下さいね。

(学生スタッフ・木山 英俊)

より良い広報誌を作成するために、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。取り上げてほしい話題、質問したいことなど、何でも結構ですので、右記連絡先までお寄せください。

岡山大学広報誌 第56号 2010.6

発行/岡山大学学長戦略室  
〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1  
TEL. (086) 251-7292 FAX. (086) 251-7294  
E-mail. www-adm@adm.okayama-u.ac.jp  
<http://www.okayama-u.ac.jp>

